



「熱海ゼロヒルチャレンジ」 急峻地形の温泉観光地へ 逆転の発想でサイクルツアーリズムへ!

hill Climb

POINT 1

熱海市は急峻な地形のため「生活の道具」としての自転車利用は、地域住民にもなじみのないものになっています。しかし、スポーツの視点で見れば、急激な坂道、綺麗な景色の海岸線、太平洋岸自転車道の一部になっている伊豆半島1周のサイクリングができる素晴らしい環境があります。熱海市でのサイクリング体験の一つとして、海拔0メートルから熱海市最高地点の十国峠（海拔765メートル）を目指して坂道を登り切るチャレンジが楽しめます。最高斜度25%の激坂を登り切るには、「ベースの基礎体力・筋力・持久力・激坂に臆しないメンタル」が必要となりますが、E-BIKE レンタルでもチャレンジできます。この「熱海ゼロヒルチャレンジ」を、急峻地形の温泉観光地のサイクルツアーリズムへの第一歩として提案しています!

※2021年7月3日 午前10:30頃 静岡県熱海市伊豆山地区の逢初川で大規模な土砂災害が発生しました。伊豆半島全域と熱海市地域をスポーツで元気にしたいと、2022年11月13日(日)に熱海市行政・地域商工業団体・議会・地域住民・地元熱海警察署及び静岡県警と連携を組み、「熱海国際ヒルクライム」を企画し、実施の予定でした。しかし、新型コロナの終息が見込めず、1,000人規模のイベントは中止となりました。ヒルクライムロードレースは中止になりましたが、参加申込者から希望者を募り、小規模なサイクリング大会を大会開催日に開催しました。

熱海国際ヒルクライム代替大会 「十国峠サイクリング」開催報告

POINT 2

熱海土砂災害の復興応援も兼ねた「熱海国際ヒルクライム」の開催がコロナの影響で中止※となったため、代替で「十国峠サイクリング大会」を開催しました。

危惧された天候もスタート場所では快晴! 十国峠では霧が出るも楽しく熱海のとっぺん「十国峠」まで全員が安全に走りきることができました。

スタート場所が国道135号線である事、温泉観光中心地域である事などから次の点を考慮して開催することで、地域との相互理解が深まり大会の満足度が上がりました。

1. 地元警察との協議・協力依頼
2. スタート時の交通量調査
3. スタート場所での温泉街朝市とのコラボイベント
4. ガードマンの設置で地元自治体や観光客への配慮
5. スポンサー企業からの協力で参加満足度がアップ



大会記録写真



少人数での「十国峠

温泉観光地の交通安全上の課題と 「思いやり1.5m 運動」の可能性

POINT 3

「十国峠サイクリング」の開催で熱海市地域や温泉旅館街など自動車交通量が多い観光地での自転車ロードレースや開催における交通安全対策の重要な事がわかりました。

伊豆半島は温泉観光地である事から、車の交通量が週末を中心に非常に多く、国立公園地域でもあることから国道135号線、南伊豆・西伊豆の海岸線の国道136号線、県道17号線は道路拡幅が困難な事情があります。今後、自転車と自動車が安全・快適に道路をシェアしていくためには、サイクリストとドライバーが互いを認識し、適切なコミュニケーションをとりながら安全走行を実現していくことが重要です。そのため、

1. 矢羽根路面標示帯だけでなく、全ての道路で「思いやり1.5m 運動」の看板設置
2. 観光施設への「思いやり1.5m 運動」周知のための掲示
3. 道路使用対象者・自転車利用者へ「走ろう! 車道運動」を啓発する
4. 運転免許更新時の冊子内に「思いやり1.5m 運動」の内容を載せる(愛媛県では実施済) ことを提案します。

サイクリング大会開



これまでの多くの温泉観光地では、マイカーでの来訪を前提として自動車優先の道路行政が進んでいましたが、「自転車活用推進法」により、今後は全国の観光地でサイクルツアーリズム推進が加速してきています。その推進においては、観光振興だけを先行するのではなく、道路事情に合わせた交通安全施策も同時に進めることが、交通事故防止とともに、地域住民と来訪者の快適な道路交通の実現につながります。

「ヘルメット着用促進も!」



資料リンク